

一般質問・質疑

2月28日、3月1日、2日の本会議では、12人の議員が質問に立ち、あかし里親100%プロジェクトや保育所待機児童解消などについて、市の見解を求めました。

なお、発言者と質問項目の一覧は下段に、主な内容は4面から6面に掲載しています。

発言者一覧

— 発言順 — () は会派名

永井俊作(未来市民)

- ①指定管理者制度と働き方改革
- ②障害児通所支援事業の現状と課題
- ③西明石地域のまちづくり
- ④スクールソーシャルワーカーの配置

尾仲利治(民主連合)

- ①子ども達が生き生きと遊び、学べる環境づくり
- ②空き家対策

林健太(真誠会)

- ①あかし里親100%プロジェクト
- ②妊娠期からの切れ目ないこども・子育て支援の強化

佐々木敏(公明党)

- ①明石の生活環境を守るために
- ②小中学校への太陽光発電の設置
- ③市役所における適切な人員配置を
- ④消費生活相談

楠本美紀(日本共産党)

- ①国民健康保険
- ②待機児童完全解消プロジェクト
- ③幼稚園教諭、臨時幼稚園教諭の給与

家根谷敦子(スマイル会)

- ①ユニバーサルデザインを考慮したやさしいまちづくり
- ②盲ろう者の支援

丸谷聡子(未来市民)

- ①不登校児童生徒への支援のあり方
- ②生物多様性あかし戦略の取り組み状況
- ③市有地を活用した大規模保育所整備の課題
- ④更生支援・再犯防止

寺井吉広(真誠会)

- ①あかし保健所の事業
- ②地域総合支援センター設置
- ③市街化調整区域等の有効活用と見直し

梅田宏希(公明党)

- ①人と動物が共生するまち明石
- ②学校における働き方改革
- ③大久保北部の交通政策

北川貴則(未来市民)

- ①福祉の充実
- ②「日本一安全なまち明石」の実現のための危機管理
- ③住むところと働くところづくり
- ④公衆トイレ、市民トイレの拡充
- ⑤良識のある愛犬家のためのドッグラン

坂口光男(真誠会)

- ①明石市人口ビジョン及び明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証と課題
- ②江井ヶ島松陰新田線の早期供用開始

辻本達也(日本共産党)

- ①神戸地方裁判所平成28年(ワ)第1201号国家賠償法による損害賠償等請求事件
- ②生活道路・通学路の安全対策
- ③学校の危機管理
- ④明石商業高等学校新規採用教員の手続きの不備に係る問題
- ⑤東部学校給食センターに係る問題

あかし里親 100%プロジェクト すべての子どもに 家庭のぬくもりを

問 平成30年度の主要事業であるあかし里親100%プロジェクトの推進について聞く。

答 現在、里親に関する業務は県が実施しているが、31年4月以降は市の児童相談所設置に伴い、里親の認定や登録などの権限が市に移譲される。それを見据え、実の親と暮らせない就学前の全ての子どもが、家庭と同じ養育環境で暮らすことができるようプロジェクトを立ち



あかし里親フォーラムを開催(あかし市民広場)

上げ、制度の周知と里親を増やす取り組みに力を入れている。具体的には、市独自の啓発ポスターの掲示やチラシの配布を市内全域で行うとともに、出前講座や相談会を実施している。さらに、昨年10月には里親月間に合わせ、あかし里親フォーラムを開催した。

今後はこれらの取り組みに加え、里親に関心はあるが登録には至っていない人を対象に、正月などの短期間に子どもを迎え入れるボラ

ンティア里親制度を推進し、養育里親へのステップアップを支援するなど、きめ細やかなサポートを行う考えだ。また、児童養護施設などと連携し、実際に子どもと交流できる機会を増やしていく。

特別養護老人ホームの整備が必要 高齢者が安心して暮らせる介護の充実を

問 本市の特別養護老人ホーム(特養)の待機者解消に向けた取り組みを聞く。

答 高齢者が要介護状態になっても安心して生活していくには、在宅または入所による介護

誰もが安心して暮らせる やさしいまちづくり さらなるバリアフリーを推進

問 昨年本市は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機にバリアフリーを推進する共生社会ホストタウンに登録された。やさしいまちづくりの実現に向けた取り組みを聞く。

答 市は、聴覚障害者が円滑に手続を行えるように、手話通訳の配置をはじめ、タブレット端末を活用した遠隔手話通訳を行っている。また、障害理解を促進するための職員研修も実施し、誰もが利用しやすい市役所窓口を目指している。

加えて、駅やバスなどハード面のバリアフリー化を進めるとともに、タクシー乗務員を対象とした視覚障害理解研修を行うなど、ソフト面の充実も図っている。さらに、飲食店等が合理的配慮の提供を行う際の公的助成制



手話フォンを設置(あかし市民広場)

度の利用促進も進めている。

今後は、手話言語・障害者コミュニケーション条例による現在の取り組みの実効性をより高めていくため、条例化も含めた包括的な指針の策定を検討している。

幼稚園教諭と 保育士の 給与と体系を統一

問 平成28年度から二見幼稚園と二見保育所を統合し、二見こども園が開園した。これに伴い、幼稚園教諭と保育士の給与と体系を統一し、幼稚園教諭の給与が引き下げられることとなったが、減額はどの程度か。また、幼稚園の現場からは子どもと接する時間を増やしてほしいという声もあるが、方策を聞く。

答 本市の就学前教育・保育の在り方や二見こども園の開園を踏まえ、幼稚園教諭の給与と保育士の給与と体系を合わせ、一元化を図る。給与水準等を総合的に見直し、正規の幼稚園教諭では生涯賃金で最大920万円、臨時幼稚園教諭では年間最大120万円の減額が見込まれるが、見直し後の賃金水準は県内他都市の保育士の給与平均を上回っている。一元化にあたり、明石市立幼稚園教職員組合と28年度から20回にわたって交渉を行い、合意を得た。また、子どもと向き合う時間を増やすため、任期付短時間勤務職員の配置など事務の負担軽減策も講じる。

比較して減少している。一方、高齢化の進展に伴い、要介護3以上の認定者数が増加していることから、特養の必要性は高いと考えている。

サービスの総合的な充実が重要であると考えている。加えて特養の待機者解消も大きな課題と認識している。

おり、引き続き整備を推進していく。30年度から32年度の第7期介護保険事業計画では、市民が優先的に利用できる地域に利用可能な地域密着型特養の整備、サービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームなどの入居者が利用できる特定施設入居者生活介護の整備をはじめ、居宅生活を支える



いつまでも元気で